

電車

男、電車に乗っている。Sの帽子を被っているが、Sの横に猫のワッペンが。男は、つり革を掴んでいる。女が乗って来る。女は男の隣に来てつり革を掴む。女は男に気づかないが、男はすぐに気づく。顔をそむける男。男、帽子を目深く被り、反対側の空いている席に座る。女、男が移動したので、男に視線をやる。女、Sの帽子に視線が向かう。男は、下を向いている。女、男から視線を外す。男、立ち上がり、帽子を上げ女に近づく。女、後ろを振り向き、男に気づく。

女あ、

男、礼をする。女、礼をし前を向く。男、一度座る。男、女に再度近づき、

男 古屋さん、

女あ、はい

男あ、の、奇遇で、

女本当に（笑っておく）

男、、

間。男、戻ろうとしかける。

女 Sの横に猫が、

男え？

女あ、猫、

男あ、そうなんです。あの、猫が好きで。

女 Sだったので、そうかと思っただけ、、猫がいて少しびっくりしました、

男、ああ、確かに（笑い）あなたからしたら、

女、、

男、、

女座りますか？

男ああ、はい。

男と女、空いている席に座る。

男座るのが好きなんですか？

女え、

男、座るの、あの座るっていう行為が、

女、そうですね、座りすぎるとお尻が痛くなったり、あの足がむくむので、

男 ああ（笑い）

女、五分五分です。

男、、

少し間

男 ああの、昨日おぎやはぎのやはぎに会いました、

女 え？

男 おぎやはぎのやはぎです、

女 それは、どっちですか？

男、あの、まともな方（ほう）です、

女、おぎやはぎってどっちもまともじゃないですか？

男 その、ツッコミの方です、

女、ごめんなさい、わたしおぎやはぎの漫才、見たことないんです、

男、あの、帽子が似合う方です、

女 どっちですか？

男 その、どっちだろ（笑い）

女、ポール・マッカートニーに顔が似ている方ですか？

男 それ、どっちですか？

女 ああの、おじいちゃんみたいな方？

男、どっち？

女、、

男、、

女、でも良かったですね、おぎやはぎに会えて、

男 はい、良かったです。

女、その、どちらかに会ったときもその帽子を被っていたんですか？

男 ああ、はい（笑い）

女（笑い）お気に入りなんですか？

男 はい、あの猫をつけてから俄然、

女 猫好きです、

男 ああ、はい。あ、あなたが？

女 はい、

男 ぼくも、好きです、

赤ちゃんを抱っこ袋でおぶっている女性が乗車。

男 赤ちゃんですね、

女 はい、赤ちゃんです、

男 、、赤ちゃんも好きです、

女 どこが？

男 あの、、ここが好きです、このお肉が迫って手とか足の付け根が、こうキュって皺になっているところが、

女 ああ、輪つかみたいになっている、(笑い)

男 そうそう、なんか、すごいなんだろうあれ、あれすごいかわいいです、(笑い)なんか入りそう、

女 え？

男 しわがすごい深いから、消しゴムのカスとかすごい入りそう、そのいっぱい詰め込みたいです、ごみとか(笑い)

女 、、

男 、まあ、かぶれるからやりませんが、赤ちゃんが、

少し間

女 お相撲さんもありますよね、

男 え？

女 あの、お相撲さんもお肉が詰まってここが輪つかみたいに、

男 あ、確かに、確かに。

女 わたし、お相撲さんのあの輪つかに、指を入れたことはあります、夢で、

男 ああ、夢で(笑い) え、何指でした？

女 、多分、人差し指です、

男 へー、なんかエロいですね、(笑い)

女 え？

男 え、なんかエロくないですか、(笑い)

女 、、

男 、、

女 何が？

男 、、

女 あ、何がですか？(笑い)

男 、、その、、分かりません(笑い)

女 、、

男 、、

男ごめんなさい、卑猥なこと言って、(小声)

女、何が、そのエロいんですか？

男、あの、なんでしよう、分かりません、自分でも。(笑い)自分で自分の言ってることが分からなくて怖いかも、(笑い)

女、でもその、

男、、

女その、やっぱり、言ったってことは、なにかやっぱり思ったんですよね？その、やらしいと。

男、、どうでしょう、

女 どうでしょう？

男、その、どうでしょう、それは。(笑い)

女、、

男どこで、降ります？

女、、

男あ、どこで、

女、次です、

男、ああ、

女、、

女聞いてもいいですか？

男、、

女、なにがその、エロかったんですか？

男、、

女、、

男、静かに、

男その静かになって、感じで、(笑い)

女、、

問。女、立ち上がる。

女、、駅なので、

男あ、はい。じゃあ、

女、ドアに向かう。、男、女の後を追う。

女、

男あの、ありがとうございます、話してくれて、(笑い)

女え？

男、

女あ、じゃあ、

男、はい、

ドア、閉まる。間。

男パンケーキを作ります、帰ったら。パンケーキミックスで、あまいものが食べたいから。あまいものが食べたいなんて、思ってしまったって、誰も許してくれません。ブタかもしれない、自分は。(笑い) こんどきにあまいものが食べたくなるってことはブタの可能性がある、ぼくがブタだったらどうしますか？、ぼくなら焼き殺します。ブタでなくても、焼き殺します。ぼくが、ぼくなら焼き殺します。(笑い)(ぼくを)見てください。見て、焼き殺してください、ぼくを。各々の、心の火で。ぼくを焼いてる間は、心の火を絶やさないように、(ホットケーキを取り出し)ブタが焼いたホットケーキ。唾ひっかけてやろうかな、ひどい色をして、腐ってるんじゃないかって。ぼくがブタである証拠です、ブタが焼いたらひどい色になりますホットケーキ。誰も望んでません、ブタの焼いたホットケーキ。あまいものが食べたいっていうブタの醜悪な欲望の表れ、それがこのホットケーキ、悪魔ホット、(ホットケーキを踏み潰す)こんなものはこうですよ (笑い) こうやって、こう、悪魔払いです、ブタの悪魔払い、(笑い)ブタのくせに甘いもの食べたくなる、その邪悪な気持ちをこうやってこう、見えますか？、見てください、どうぞ、見てください、ブタです、ブタなんです、ぼく、